

鯖江市議会・市民創世会

# 大門よしかずレポート



鯖江市新横江1丁目7-22 TEL/FAX(0778)52-7488 携帯090-6810-2462

## ごあいさつ

今年の梅雨は平年に比べ約150%の雨が降ったようです。集中豪雨による水害も一部地域にとどまらず、北九州から北東北まで全国的な拮据を見せました。



濁流が流れ込み泥だらけの道路(河和田町内)

鯖江市においても、7月13日の夜中から未明にかけての集中豪雨で、河和田町内の天神川が越水しました。周辺の民家に濁流が流れ込み、十数軒の床上浸水や床下浸水の被害が発生しました。被災された住民は猛暑の中、泥出しや後始末に大変な労力を強いられました。心よりお見舞い申し上げます。また、谷川からの土砂の流出が多くの場所で見受けられました。改めて治水の大切さを強く感じたところです。

さて、7月2日に市議会議員選挙が行われました。その結果、定数20名に対し新人8名が当選し、世代交代を印象付けるものとなりました。とくに、女性議員が3名となり、女性議員をもっと増やそうという全国的な流れが鯖江市にも表れた感があります。子育て世代の女性の声が多く市政に届けられるようになれば、女性が住みやすく、子育てしやすい鯖江市になるのではないかと期待したいところです。

また、百条委員会は4月で一応の終結を迎えました。今後は司直の手に委ねられることになるのでしょう。しかし、市民からはいつまでもこんなことに関わらず前向きな議論を望む声が多く寄せられました。議会も多くの新人を迎い入れました。共に新たな歩みを

始めなければならないと思います。

(原稿作成時と状況が違っている場合があります。あしからずご了承ください。)



## 6月議会一般質問より

(鯖江市のHPで録画の配信を行っています)

### 鯖江つつじマラソンについて

今年の鯖江つつじマラソンは、4年ぶりに本来の形に戻しての開催となりました。久しぶりに鯖江に賑わいが戻ってきて、大変うれしく感じました。また、このようなイベントが大変人気の高いものになっていることも再認識されました。

私自身も、メイン会場が地元ということもあり、昨年と今年、2年続けて5キロの部のランナーとして走らせていただきました。その中で、いろいろと感じる箇所もありましたので、今回一般質問のテーマとして取り上げさせていただきました。



今年の鯖江つつじマラソン

#### (Q) 参加者の推移について

(A) 今回の第45回大会は4年ぶりにハーフの部およびエキシビジョンの車椅子レースの部を復活させ、全5種目21部門で開催し、県内外より2,038組、2,211人のエントリーでした。コロナ禍前の令和元年度第41回大会は2,852組で3,333人のエントリーでした。今回の大会はコロナ禍前と比較しますと、約3分の2にとどまったという状況です。

#### (Q) 市内、県内、県外に分けてのエントリー人数は

エントリーされた方の内訳を見ますと、ファミリーの部は市内。5キロ、10キロの部は県内。そして、ハーフの部は県外の参加者が多い傾向が表れているように思います。市内、県

内、県外に分けてのエントリー人数はどうだったのか。

**(A)** 市内からの参加者は565組で674人。鯖江市を除く福井県内からの参加者が970組で1,030人。県外からの参加者が503組で507人でした。このうち、ハーフの部は市内82人、県内282人、県外302人の合計666人でした。県外者が約45%を占めました。

**意見** ハーフの部には県外からたくさんの方が来られています。ハーフの部の人気を物語っています。このようなイベントは鯖江に来ていただける絶好の機会です。その方たちにリピーターとして毎年来ていただくために、どうすれば好印象を持って帰っていただけるかということに知恵を絞るべきと思います。

### **(Q) RUNNETの利用について**

この大会に参加するには「RUNNET」というサイトを通じて申し込みをしなければなりません。従来は窓口で申込書を書き、お金を添えて出せば登録完了でした。しかし、ネットに不慣れな人にとっては、ネットでの申請に抵抗感があり、諦める人もいるのではないのでしょうか。

RUNNETの利用は、いつからなのか、そのメリット、デメリットは。ネット環境に慣れていない人に対して、どのようなサポート体制を取ったのか。

**(A)** 鯖江つつじマラソンでは、平成21年の第31回大会よりRUNNETを利用しています。令和3年の第43回大会からは原則としてRUNNETを通じての参加申込みとさせていただきます。メリットとしては、一度登録すれば、つつじマラソンをはじめ、全国のマラソン大会への参加申し込みや参加料の納付に係る手続が24時間いつでも行えます。一方、デメリットとして、高齢者などのパソコンやスマートフォン操作に慣れていない方にとっては、RUNNETの登録手続が難しいという感想を持たれるかと思えます。今回このようなケースが42件ありました。この方々にはスポーツ課にて個別に対応させていただきました。

### **(Q) イベント全体の収支について**

今年度の事業予算643万円。内訳として、その他の財源480万円、一般財源から163万円となっています。

実際の収入は、参加費、広告費、協賛金などいろいろあると思います。支出は参加賞の景品、パンフレットなどの印刷物、副資材、スポーツ協会への経費などが想定できます。また、RUNNETの手数料もあります。実際の収支は。

**(A)** イベント全体の収支は、収入として市からの負担金643万円のほかに参加者負担金と繰越金を合わせて1,169万1千円の予算としています。

支出として、市スポーツ協会や補助員の皆さんへの報償費

として96万円、参加賞のタオルなどの消耗品、ポスター、プログラムの印刷製本費で395万円、通信運搬費や保険料などで77万円、会場設営や記録計測業務等の委託料として543万円。シャトルバスの借上料など52万5千円。合計で1,169万1千円を見込んでいます。

なおRUNNETへの手数料は220円です。運営会社に納付されます。実行委員会の収入には含まれません。



ファミリーの部のスタート(過去の大会の様子)

### **(Q) 経済波及効果はどう分析しているのか**

鯖江市の一般財源からの持ち出しが163万円。これでこれだけ大きなイベントができるということは、なかなか経済効果がいいのではないかと思います。

このイベントは県内外から多くの方がやってきます。移動手段は主にマイカーやJRだと思います。また、前日から宿泊する参加者もおられるのではないのでしょうか。また、周辺の飲食店やコンビニもたくさんの方が利用したと思われます。このイベントによっていろんな業種に経済効果が生じていると思うが市の見解は。

**(A)** 経済効果については、実際に具体的なデータを取っていません。感覚的には、県外参加者が503組507人ですから、近隣の飲食店ですとか、小売店などを利用された方は一定数いたのではないかと推測しています。

また、宿泊は市内3か所のホテルに問い合わせしましたが、1か所はやや多かったかなという程度で、2か所は特に普段と変わらないという回答でした。宿泊面で大きな経済効果があったとは言い難いかなと思います。

### **(Q) ネットでの評価が低い、見解は**

ネットでの評価として、インターチェンジやJR鯖江駅から近く、アクセスが良好である。参加料が3,000円(一般・ファミリーの部)とリーズナブルである。また、コースがほぼ田んぼの中で直線的なため、単調でつまらないという声がある一方、道幅が広く走りやすく、記録が狙えるとの好意的な意見も見られます。さらに、中学生のボランティアは元気があって良かったとの好評価もありました。

しかし、ネット上での今年の鯖江つつじマラソンの評価は60.4点でした。今年開催された各地のマラソン大会の評価の平均が68.8点。同じ北陸の魚津しんきろうマラソンは76.0点と高評価を受けています。全国のマラソン大会を渡り歩いている人たちの評価ですから、大いに参考にすべきものと思います。改善点があるのではないかと。

**(A)** 5月22日現在の投稿数は80件です。今年度開催された全国の大会の平均を約8ポイント下回る点数でした。投稿された内容は、ローカルで親しみやすい大会とか、コースが平坦で良いとか、ボランティアの対応が良かったなど、好印象の投稿が多いように受け止めています。マイナス意見は給水所の数が少ないとか、会場内でのドリンクサービスが分かりづらいなどのご意見をいただきました。今後の検討課題として改善に繋げていきたいと考えています。

**意見** ネット上での評価は、その日の気象条件でも大きく変わるので、これに一喜一憂する必要はないと思います。鯖江つつじマラソンのコースは、田園地帯をひたすら走るわけですから、美しい自然景観とか、町並みの綺麗さでは不利です。しかし、おもてなしや沿道の声援、演出などの独自性で勝負できると思います。いろいろと知恵を絞っていただきたいと思います。



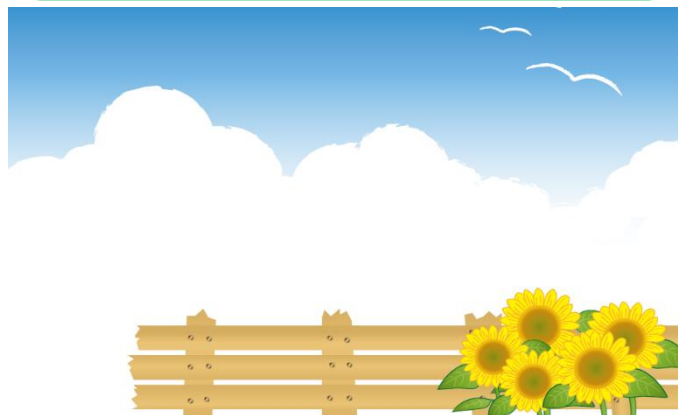
### **(Q) ボランティアについて**

私もこの大会に参加して感じたことは、大変多くのボランティアに支えられてこの大会が成り立っているということでした。この大会を運営するに当たり、どのような体制で臨まれたのか。

**(A)** 今大会は総勢460人のボランティアに支えていただきました。ボランティアに関しては、例年、市スポーツ協会を通じて、各種目協会や各地区スポーツ協会などの関連団体に、コース上の自主警備員をお願いしています。今回157人のご協力をいただきました。また、市内3中学校の先生方や陸上部員、スポーツクラブ所属の中学生など学校関係で183人。3か所設けた給水所で地元関係者67人など。このほかにも多くの事業所、団体の皆様に選手受付や飲料水配布などでお世話になりました。さらに、今回初めて、市と包括連携協定を結んでいる第一生命株式会社様からもボランティアの申し出があり、選手受付係として17人のご協力をいただきました。

ボランティアの皆様には、参加賞の帽子やタオルなどをお渡ししているほか、競技ボランティアの方々には、僅かではありますが謝礼をお渡ししています。

**感想** 想定以上に沢山のボランティアの方々によってこの大会が成立しているということがよく分かりました。その労に十分報いていると言えるかどうか分かりませんが、心より感謝を申し上げたいと思います。



### **(Q) ハーフの部の制限時間が適切だったか**

ハーフの部が最も人気が高く、男女合わせたエントリー数は666人となりました。制限時間は2時間15分に設定されていました。競技ランナーにとっては問題ないかも知れませんが、一般の市民ランナーにはかなりレベルが高い設定ではなかったかと思われます。この制限時間を見て、エントリーを諦めた人もいたのではないのでしょうか。市民ランナーも参加しやすいよう、もう少し時間を伸ばすことはできなかったのでしょうか。また、制限時間で切られたランナーは何人いたのか。

**(A)** 実際に走られたランナーの方のRUNNET大会レポートでも、2時間15分は厳しいという声をいただいています。ただ、交通規制により地域の皆様にご不便をお掛けしているという面もありますので、この点を十分考慮した上で、制限時間を延ばすことが可能かどうかを今後検討したいと考えています。なお、今回制限時間内での完走ができなかった選手は、ハーフの部で10名でした。

**意見** 他のマラソン大会では、制限時間が3時間というところもあります。鯖江つつじマラソンの謳い文句は、「つつじマラソンは家族そろって、また友達と一緒に楽しみながら走る市民のマラソン大会です。」と書いてあります。一般の市民の方も参加しやすいよう、もう少し時間的に余裕を持たせても良いのではないのでしょうか。

### **(Q) 今年は出店やおもてなしがなかったが次年度以降の対応は**

イベントとしての賑わいはコロナ禍前に比べ、ちょっと欠けていたのかなと感じました。以前は、つつじの苗木をプレゼントしたり、豚汁のサービスをしたりとおもてなしをしていたようです。キッチンカーや軽食の販売をすると賑やかさが出

ます。また、サングラスやレッサーパンダのグッズを販売すれば、鯖江のアピールにもなります。次年度以降はどのように考えているのか。

**(A)** コロナ禍前の第41回大会までは豚汁や、鯛焼きなどのふるまいをさせていただいたほか、会場内で物品販売も行いました。さらに、県外の参加者限定で先着500名にツツジの苗木をプレゼントさせていただきました。

今回、感染症対策に配慮した大会運営方針とし、おもてなしの面で物足りないと感じたと思います。今後は、県内各市町のマラソン大会などの状況を参考に、おもてなしについても事業者や団体の皆様の協力を得られるよう努力します。



### **(Q)** 独自色をどのように出していくのか

鯖江つつじマラソンは、市民マラソンとして幅広い世代が親しめる大会と位置づけているようです。そうであるなら、もう少しその姿勢を打ち出してもいいのではないかと思います。種目全体を見ますと、5キロの部は男子が4階級ですが、女子は一般女子の1階級のみです。10キロの部は男子が3階級ですが、女子は一般女子の1階級のみです。

福井新聞には各種目の10位までの名前が公表されます。女子の場合、20代も高齢者も一緒のクラスでは、高齢者が上位に名を連ねる見込みはほぼありません。クラスを分けることによって、高齢者にも上位者として名前が掲載されるチャンスが生まれます。それが、次回以降の励みに繋がるはず。女子のクラス分けは一つの提案ではありますが、男子の部でも、ふくい桜マラソンのように70歳以上のクラスを設けるなど独自色を出す方法は考えられるのではないかと。

**(A)** 現状の女性ランナーの参加区分は、ハーフ、10キロ、5キロ、3キロの4種目で、いずれも年齢での区分を行わず一般女子という括りで部門を設けています。今回全体で327人のエントリーがありました。70歳以上のランナーは男女計で86人の方のエントリーがありました。

一般女子部門での年齢によるクラス分けや、70歳以上の部門を新設することで、参加意欲を向上させるという効果もあると思われます。各部門の参加状況を踏まえ、クラス分けの状況をほかの大会などの調査を行いながら、実行委員会に諮ります。

**意見** 鯖江市は女性活躍を強く打ち出している市です。他のマラソン大会に比べ、女子に配慮した大会と位置づけられ、県内外から多くの女子ランナーを呼び寄せられるのではないのでしょうか。また、元気な高齢者も増えています。健康寿命を延ばす意味でも検討すべきです。

### **(Q)** 開催時期を見直すべきでは

鯖江つつじマラソンは5月の第2日曜日開催です。しかし、近年この時期にはほぼつつじの花はほぼ終わっています。以前より、つつじマラソンと銘打ちながら沿道にツツジの花がない、との指摘を受けてきました。それを受け、マラソンコースの歩道に植樹柵を設けツツジを植栽したり、穴田川堤防に植栽をしたりしてきました。しかし、花が終わってしまった時期につつじマラソンを開催しても、これらの努力は生きてきません。せっかく県の内外から多くのランナーが集結するわけですから、ぜひともつつじが綺麗に咲き誇る西山公園を見て欲しいと思います。また、参加者もせっかく鯖江に来たのだから、つつじの咲き揃う西山公園を見て帰りたいと思うのではないのでしょうか。

「鯖江つつじマラソン」と銘打つからには、つつじがきれいに咲き揃うであろうGW(ゴールデンウィーク)直前の日曜日かGW初めに開催日時を変更すべきではないか。

**(A)** つつじマラソンはGWの期間中としていた時期もあります。

しかし、つつじまつりや、越前漆器まつりの時期と重複します。それぞれ、多くの企業や団体、市民ボランティアの皆様が運営に参画をいただいております。同じ時期に協力依頼が集中してしまいます。このような理由から実行委員会の皆さんの総意として、現行の開催時期に変更したという経緯があります。ご理解をお願いします。



歩道に設置されたつつじの植栽柵  
つつじマラソンの時に花はありません



穴田川堤防に植栽されたつつじ

**あとがき** 連日大変な猛暑が続いています。子供の頃を思い出すと、急激な気候変動、地球温暖化は紛れもないものがあります。今の私たちの世代が便利な生活を享受し、子や孫の世代に大きな負担を背負わせる事になるのではないのでしょうか。国連はSDGsを提唱して持続可能な世界の実現を目指していますが、一方、戦争を止めることはできません。地球環境を破壊し続ける人間の業の深さを思わずにはいられません。

6月議会の後、市議会議員選挙や臨時議会が開かれるなど、今号の発行が通常より遅れてしまいました。お詫び申し上げます。最後までお読み頂き有り難うございました。